



後藤 光明 議員

問 高齢者の就業機会増加は

答 世帯見守り収集支援事業を

高齢者の就業機会増加を

問 シルバー人材センターに地域支援事業の一部を委託し、高齢者の就業機会増加を図っては。

答 福祉課長 平成27年度から「高齢者世帯見守り収集支援事業」として、ごみの排出が困難な高齢者世帯に対する支援を委託により実施する予定となっている。今後も、元気な高齢者に関わっていただく機会を増やしたいと考えている。

高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを

問 高齢者の社会参加や生きがいづくりをどう支援していく考えか。

答 町長 老人クラブ活動やシルバー人材センター、ボランティアセンターへの助成や、憩いのサロン事業に関する運営ボランティアの育成などを通じて、高齢者の活動環境の充実を図って

きた。

今後は地域交流センター・温水プール建設、さらに、中央公民館の施設機能を再考し、活動の場を拡充、提供できるよう検討していく。高齢者の方が「いきいきと暮らせるまちづくり」を目指していく。

※他に「地域包括ケアシステムの構築」、「認知症高齢者の現状と課題」などの質問。



■シルバー人材センター

問 農業集落排水事業の今後は

答 公共下水道に接続する予定

汚水処理事業の

効率的な運用を

問 農業集落排水を公共下水道に接続する利点は。

答 産業建設部長 施設の更新費用、維持管理費の削減などが利点となる。

問 農業集落排水事業は、現在運用している市原・原田地区の他、新田・北山・中山地区の計画があったが、なぜ実施しなかったのか。

答 産業建設部長 実施しなかった地区は市街化区域に隣接する地域が多く、公共下水道への接続が経済的で効率的との検討の結果である。

問 市街化区域の公共下水道事業が平成23年度に終わったが、この3地区との接続を実施する予定はあるのか。

答 産業建設部長 町の財政状況などや雨水整備事業とのバランスを考慮すると、公共下水道には接続せず、この3地区については、合併浄化槽を使用した個別処理にて対応していく。

問 農業集落排水を公共下水道に接続する時期は。

答 町長 平成32年度より供用開始を予定している。

※他に「野犬対策について」の質問。



■市原浄化センター



青木 宏和 議員

問 屋内温水プールの建設時期は 答 将来の武豊町を見据え判断する

**財政負担にならない
屋内温水プールの
建設を**

問 屋内温水プールの供用開始を平成31年にすると、起債が大幅に増え、供用開始を平成34年にすると、財政が平準化され、起債もそれほど増えないと思うが、考えは。

答 **総務部長** 屋内温水プールの建設を、財政調整基金の約15億円を取り崩して行えば可能となるが、そうならば基金が枯渇し、当初予算も組めない状況になる。これから大きな事業が残っている中で、資金確保す



■海老名市温水プール

るには起債（借入）しかない。単年度で行えば、起債が増えてしまう状況になる。そのような中で財政の平準化は、大きなウエイトを占める。

建設時期は、財政の平準化だけではないので、いろんな形、側面から検討していく。

答 **副町長** 20年後、30年後の武豊町を見据え、起債を増やしても事業をやるべきかどうかを検討し、建設時期を判断していく。

答 **町長** 地方創生事業に組み込めないか、また、歳入もみながら検討していく。



大岩 保 議員

問 環境施策の推進を 答 協働による環境のまちを目指す

**協働のまちづくりや
子ども会活動について**

問 地域のみなさんが協力し、協働のまちづくりができてきつつあるが、どのように感じているか。

答 **町長** さまざまな環境美化活動を通じて、町全体に協働意識の醸成が進み、環境配慮への意識も高まっているものと感じている。

今後も、環境美化活動などを積極的かつ継続的に支援し、協働による「環境のまち武豊」を目指す。

問 子ども会活動「資源回収」による収入減について、どのように考えているか。

答 **環境課長** 子どもたちが資源の大切さやごみを出さない意識を持つことは非常に重要である。

平成27年度、報奨金単価の見直しを行う予定である。

問 リユースステーションの今後は。

答 **厚生部長** 周知不足であるが、今後も根気強くPRしていく。

リユース意識を高め、ごみ減量に努める。



■水辺クリーンアップ運動

